

病院

Hospital



前面道路側のファサード面にカーテンウォールを採用した外観。ガラス張りの開口部をふんだんに用いることで、構造強度を確保しながら、周囲の街並みからもインパクトのあるシンプルかつモダンなデザインが実現した。

オール木造で杉1,900本分の炭素を貯蔵 2×4耐火建築物の病院

カーテンウォールの外観が街並みに存在感を放つこの建物は、オールツーバイフォー工法による3階建ての病院です。地域で24年間整形外科病院を営んでいた理事長は、子供時代を自然豊かな里山で過ごした方。眼科の併設に伴う移転計画に際し、「地球環境や地域、患者様、スタッフにもやさしく温かみのある病院をつくりたい」との想いから木造建築を希望し、ツーバイフォー工法の耐火構造が選択されました。

プランは1階に受付と診察室、検査スペース、2階にリハビリ室と手術室、3階に入院用の病室という構成。1階はMRI装置を設置するため階高を3.8m、2階には手術室を配置し、その天井裏にクリーンユニットを設置するため階高を4.2mと高めに設計されました。また、2階ではリハビリ室で3m、その他のゾーンで2.8mの天井高が確保されました。ツーバイフォー工法は面構造のため揺れにくい特性がありますが、手術室では安全を期し、微細な振動も抑えられるように構造を強化。床根太にたわみの少ない集成材を使用し、スパンを短くするために階下に支持壁や柱が配されました。

空間デザインのシンボルとなったのがヒノキの一本柱。千葉県内より取り寄せられ、3層の吹抜けを貫いて設置されました。本施設での木材の総利用量は580m³。炭素貯蔵量(CO₂換算)は474t-CO₂*¹で、杉の木約1,903本*²の炭素を貯蔵する建物ということになります。



(上) エントランス側の外観。板張りの風合いをもつ外装材を組み合わせ、親しみやすさのあるデザインに。
(下) 利用者を温かく迎える待合ホール。右手に見えるのがヒノキの一本柱で3階まで伸びる。

*1 林野庁「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示に関するガイドライン(令和3年10月1日)」をもとに算出
*2 杉の木(35年生)1本あたりに固定された炭素量を68kgとして算出((国研)森林研究・整備機構森林総合研究所の算定解説より)

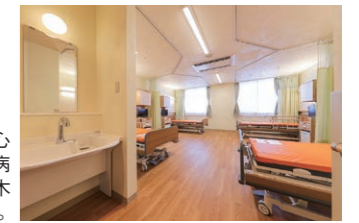


2階の整形外科のリハビリ室は180㎡超の広さ。

明るく広々とした3階のホール。吹抜けに面する大きな窓からはヒノキの柱が見える。

木調の内装が多用され、夜間も温もりあるインテリアの1階カフェテリア。カーテンウォールの大きな窓が視界を広げる。

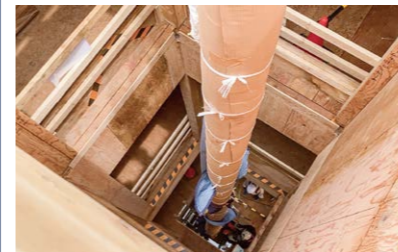
漆喰の壁・天井で、快適で安心感のある入院環境をめざした病室。ベッドサイドの床頭台も木づくりのものが採用されている。



3階建ての病院をツーバイフォー工法による耐火構造で建設。



2階の手術室の床根太には集成材を使用。振動対策で短いスパンで配置されている。



千葉県夷隅郡大多喜町から取り寄せたヒノキの一本柱が1階のエントランスから3層の吹抜けを貫いて設置された。

物件概要

佐倉整形外科眼科病院

所在地：千葉県佐倉市
用途：病院(33床) 構造：枠組壁工法(耐火建築物)
規模：3階建て
敷地面積：2,869.25㎡(867.94坪)
建築面積：848.23㎡(256.58坪)
延床面積：2,266.62㎡(685.65坪)*マニーホールド・廃棄物保管庫を含む
1階 787.30㎡ 2階 779.83㎡ 3階 678.93㎡
事業主：医療法人社団 樹徳会
設計・施工：三井ホーム(株) 設計協力：(株)メドックス
工期：2021年11月～2022年11月
法規制：第一種低層住居専用地域、第一種住居地域
(建蔽率66.59%、容積率165.91%)

